

令和5年度
授業評価結果報告書

群馬県立県民健康科学大学
内部質保証委員会
F D 部会
I R 部会

令和5年度 授業評価報告書

1. 授業評価の概要

1. 1 授業評価の趣旨

授業評価の目的は、各教員が授業の内容および方法を改善し、教育の質を向上させることである。本学では平成22年度から、学生による授業評価とそれに基づいた教員の自己評価を組み合わせる形で授業評価を開始し、双方の評価結果を学生と教員が共有することで、この目的達成に取り組んでいる。

1. 2 学生による授業評価

1. 2. 1 調査票について

平成29年度より学修支援システム manaba（以下、manaba とする）を活用した授業評価アンケート調査が開始された。本年度も「講義」「演習」「実習」「実験」の4種類の授業形態毎の調査を継続し実施した。授業評価アンケートは、manaba マイページの最上部に、学生が履修している授業形態別にアンケートのリストが表示され、履修者のみが閲覧でき、授業科目名を選択し回答する仕組みである。アンケートの冒頭には、授業評価アンケートの趣旨「教員が学生による授業評価結果を把握し授業改善・向上に活用すること」が示され、個人情報保護の観点を含む倫理的配慮として集計における回答者の個人情報の匿名化が明示され、学生への協力依頼がなされている。

Web システムによるアンケート導入により質問形式の自由度が拡大したことから、平成30年度より授業評価アンケートの内容は、学生の回答を通して教員が自身の改善点を明確に把握できる質問内容に改訂された。アンケートの大項目は、学生の授業に対する理解度・目標の達成度の確認、理解度・達成度が十分でない場合の理由、授業に対する取り組み姿勢・準備状況、教員側の自己学修の促進、成績評価の明確さ、授業の満足度と良かった点・改善点を問う構成である。回答には原則として5件法を採用した。

令和2年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則及び「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」、また令和3年に診療放射線技師養成所指定規則及び「診療放射線技師養成所指導ガイドライン」が一部改正され、令和4年度から改正カリキュラムが適用されることとなった。この改正に伴い、令和3年度にはアンケート項目を検討し、令和4年度に一部変更を加えた。この変更は、学生が主体的な学修に取り組むことの重要性が高まっている大学教育の現状を踏まえ、授業評価の質と精度を向上させるために行った。具体的には、質問の項目および順序、分類を見直し、教員と学生の双方がより効果的に授業内容を評価・改善できるよう調整した。これにより、質問の表現がより明確になり、授業形態にかかわらず質問項目が統一された。また、類似する質問項目は統合され、実習では教員を主に評価対象とする選択肢を設定した。さらに、自己学修を行ったかどうかについても、それぞれの授業形態に応じた必要な自己学修時間を確認した上で回答を求めるようにした。これらの変更は、学生の学修態度の改善や学修成果の向上に寄与するものである。

令和5年度は質問項目及び回答の選択肢を検討し、経年変化が検討できるように前年度と同様の質問項目及び選択肢とした。

次ページ以降、授業形態別の授業評価アンケート評価項目を表1に示した。

表 1-1 授業評価における評価項目 <講義>

	分類	項目 No.	評価項目
講義	講義に対する取り組み姿勢・準備状況、目標達成度	①	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義を受けましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		②	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		③	単位認定には自己学修時間（講義1単位あたり30時間）が必要です この講義に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか 1. ほとんど行わなかった 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 2時間程度 5. 3時間以上
		④	講義の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか 1. まったく達成できなかった 2. あまり達成できなかった 3. おおむね達成した 4. 十分達成した 5. 非常に高いレベルで達成した
	講義の目標達成度が十分でない場合の理由	⑤	前項④で1-2と回答した方は、十分達成できなかった理由を複数回答で選んでください。 1. 勉強が足りなかった 2. 講義の目的・目標が明確でなかった 3. 話し方が聞き取りにくかった 4. 教材・器具、資料（量・質）が適切でなかった 5. 講義中の課題等に対する指示が明確でなかった 6. 講義の時間配分が適切ではなかった 7. 学生の理解度の確認が十分でなかった 8. 質問・意見が気軽にできなかった 9. レポートや提出物等に対するフィードバックが十分でなかった 10. 学生の自主性が尊重されなかった 11. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった 12. 説明や指導が熱心でなかった 13. 討議等の活動を取り入れなかった 14. 教員間の連絡、指導内容の調整等が十分でなかった 15. 講義に集中できる環境を調整しなかった 16. その他（ ）
		⑥	前項⑤で16を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑦	講義にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		⑧	成績評価の方法と基準は明確でしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	講義内容の満足度、良かった点・改善点	⑨	総合的にみて、この講義に満足できましたか 1. 全く満足できなかった 2. あまり満足できなかった 3. どちらともいえない 4. 満足できた 5. 十分満足できた
		⑩	この講義の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

表 1－2 授業評価における評価項目 <演習>

	分類	項目 No.	評価項目
演習	演習に対する取り組み姿勢・準備状況、目標達成度	①	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で演習を受けましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		②	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		③	単位認定には自己学修時間（演習 1 単位あたり 15 時間）が必要です この演習に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか 1. ほとんど行わなかった 2. 30 分程度 3. 1 時間程度 4. 2 時間程度 5. 3 時間以上
		④	演習の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか 1. まったく達成できなかった 2. あまり達成できなかった 3. おおむね達成した 4. 十分達成した 5. 非常に高いレベルで達成した
	演習の目標達成度が十分でない場合の理由	⑤	前項④で 1－2 と回答した方は、十分達成できなかった理由を複数回答で選んでください。 1. 勉強が足りなかった 2. 演習の目的・目標が明確でなかった 3. 話し方が聞き取りにくかった 4. 教材・器具、資料（量・質）が適切でなかった 5. 演習中の課題等に対する指示が明確でなかった 6. 演習の時間配分が適切ではなかった 7. 学生の理解度の確認が十分でなかった 8. 質問・意見が気軽にできなかった 9. レポートや提出物等に対するフィードバックが十分でなかった 10. 学生の自主性が尊重されなかった 11. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった 12. 説明や指導が熱心でなかった 13. 討議等の活動を取り入れなかった 14. 教員間の連絡、指導内容の調整等が十分でなかった 15. 演習に集中できる環境を調整しなかった 16. その他（ ）
		⑥	前項⑤で 16 を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑦	演習にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manaba の利用など）がされていましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		⑧	成績評価の方法と基準は明確でしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	演習内容の満足度、良かった点・改善点	⑨	総合的にみて、この演習に満足できましたか 1. 全く満足できなかった 2. あまり満足できなかった 3. どちらともいえない 4. 満足できた 5. 十分満足できた
		⑩	この演習の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

表 1－3 授業評価における評価項目 <実習>

	分類	項目 No.	評価項目
実習	実習に対する取り組み姿勢・準備状況、目標達成度	①	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で実習を受けましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		②	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		③	単位認定上の自己学修時間は設けていませんが、授業の性質上、事前・事後学修は必要です。この実習に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか 1. ほとんど行わなかった 2. 30 分程度 3. 1 時間程度 4. 2 時間程度 5. 3 時間以上
		④	実習の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか 1. まったく達成できなかった 2. あまり達成できなかった 3. おおむね達成した 4. 十分達成した 5. 非常に高いレベルで達成した
	実習の目標達成度が十分でない場合の理由	⑤	前項④で 1－2 と回答した方は、十分達成できなかった理由を複数回答で選んでください。 1. 勉強が足りなかった 2. 実習の目的・目標が明確でなかった 3. 話し方が聞き取りにくかった 4. 教材・器具、資料（量・質）が適切でなかった 5. 実習中の課題等に対する指示が明確でなかった 6. 実習の時間配分が適切ではなかった 7. 学生の理解度の確認が十分でなかった 8. 質問・意見が気軽にできなかった 9. レポートや提出物等に対するフィードバックが十分でなかった 10. 学生の自主性が尊重されなかった 11. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった 12. 説明や指導が熱心でなかった 13. 討議等の活動を取り入れなかった 14. 教員間等の連絡、指導内容の調整等が十分でなかった 15. 実習に集中できる環境を調整しなかった 16. その他（ ）
		⑥	前項⑤で 16 を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑦	実習にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manaba の利用など）がされていましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		⑧	成績評価の方法と基準は明確でしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	実習内容の満足度、良かった点・改善点	⑨	総合的にみて、この実習に満足できましたか 1. 全く満足できなかった 2. あまり満足できなかった 3. どちらともいえない 4. 満足できた 5. 十分満足できた
		⑩	この実習の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

表 1-4 授業評価における評価項目 <実験>

	分類	項目 No.	評価項目
実験	実験に対する取り組み姿勢・準備状況、目標達成度	①	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で実験を受けましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		②	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		③	単位認定上の自己学修時間は設けていませんが、授業の性質上、事前・事後学修は必要です。この実験に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか 1. ほとんど行わなかった 2. 30 分程度 3. 1 時間程度 4. 2 時間程度 5. 3 時間以上
		④	実験の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか 1. まったく達成できなかった 2. あまり達成できなかった 3. おおむね達成した 4. 十分達成した 5. 非常に高いレベルで達成した
	実験の目標達成度が十分でない場合の理由	⑤	前項④で 1-2 と回答した方は、十分達成できなかった理由を複数回答で選んでください。 1. 勉強が足りなかった 2. 実験の目的・目標が明確でなかった 3. 話し方が聞き取りにくかった 4. 教材・器具、資料（量・質）が適切でなかった 5. 実験中の課題等に対する指示が明確でなかった 6. 実験の時間配分が適切ではなかった 7. 学生の理解度の確認が十分でなかった 8. 質問・意見が気軽にできなかった 9. レポートや提出物等に対するフィードバックが十分でなかった 10. 学生の自主性が尊重されなかった 11. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった 12. 説明や指導が熱心でなかった 13. 討議等の活動を取り入れなかった 14. 教員間等の連絡、指導内容の調整等が十分でなかった 15. 実験に集中できる環境を調整しなかった 16. その他（ ）
		⑥	前項⑤で 16 を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑦	実験にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manaba の利用など）がされていましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		⑧	成績評価の方法と基準は明確でしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	実験内容の満足度、良かった点・改善点	⑨	総合的にみて、この実験に満足できましたか 1. 全く満足できなかった 2. あまり満足できなかった 3. どちらともいえない 4. 満足できた 5. 十分満足できた
		⑩	この実験の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

1. 2. 2 授業評価の実施方法

授業評価アンケートは、セメスター終了後の単位認定試験期間を目処に、manaba 上で公開され、学生に対して積極的な回答協力の広報を行った。また、単位認定試験後に実習が予定されている科目など授業期間が異なる場合には、アンケート公開期間の延長等により対応した。

授業評価は、原則として授業最終日の授業時間を活用し、授業担当教員から学生に対して授業評価の依頼と回答方法を説明しアンケートを実施した。令和 5 年度は、COVID-19 の流行等に留意しながら、対面式授業を実施するとともに、臨地実習については、臨地実習施設の受け入れ状況を確認し、実習方法は担当教員と臨地実習指導者が協議して行った。アンケート回答率の向上を目指し、授業担当教員による学生への授業評価の依頼や回答方法の説明に加えて、FD 部会では manaba コースニュースを活用した授業評価協力依頼のアナウンスの強化、最終回の授業時間内における回答時間の設定、単位認定試験終了後までの回答期間の設定等、依頼方法や実施方法を工夫した。これらの工夫により、依頼方法や実施方法の改善を図り、学生の協力を促した。

授業評価アンケートは、個人が特定されないシステムを採用しており学生に不利益が及ぶことはない。また、アンケートの回答は学生の自由意思によるものとして保障されている。なお、manaba による調査結果の集計は事務局が担当し、教員は関与していない。

1. 3 教員による授業評価報告書

教員による授業評価報告書は、学生による授業評価の集計結果及び自由記述内容を受けて、下記の 3 項目に沿って作成する。

- 1) 学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想
- 2) 実施した授業方法・工夫に対する評価
- 3) 授業に対する総合的評価と改善点

1. 4 授業評価結果の集計方法

学生による授業評価結果及び教員から提出された授業評価報告書は、科目区分別に、「教養教育科目」、「看護学部 専門基礎科目・専門科目」、「診療放射線学部 専門基礎科目・専門科目」に区分して集計した。なお、本年度は専門教育科目の合同科目については、各学部の区分に含め集計した。また、調査用紙は授業形態別に「講義」「演習」「実習」「実験」毎に作成されているため、それぞれ区分別に集計した。

2. 学生による授業評価の実施状況

2. 1 授業評価の実施科目数と学生の回答率

本年度に開講した科目の授業評価に関する実施状況及び学生による回答率をそれぞれ表 2 及び表 3 に示した。表 2 のとおり、開講されたすべての科目で授業評価アンケートを設定した結果、実施率 100%であった。

学生の授業評価への回答率を科目区分別にみると、表 3 のとおり診療放射線学部の専門基礎・専門科目が最も高く 63.0%であった。さらに、授業形態別では講義が最も高く 62.9%、演習が最も低く 46.0%であった。manaba を活用したアンケートは 7 年目となるが、全体的な平均回答率については平成 30 年度以降 41.3%、令和元年度 44.5%、令和 2 年度 46.7%、令和 3 年度 53.8%、

令和4年度 58.0%、令和5年度 54.3%であり、経年的には改善傾向にあるが、前年度の 58.0%との比較ではやや減少した。

表2 令和5年度 学生による授業評価の実施科目数

科目区分	教養教育科目		看護学部 専門基礎・専門科目		診療放射線学部 専門基礎・専門科目		合計	
	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象
講義	20	20	27	27	39	39	86	86
演習	23	23	28	28	15	15	66	66
実習	-	-	18	18	8	8	26	26
実験	-	-	-	-	7	7	7	7
合計	43	43	73	73	69	69	185	185
実施率	100%		100%		100%		100%	

表3 令和5年度 学生による授業評価の回答率（%）

科目区分	教養教育科目			看護学部 専門基礎・専門科目			診療放射線学部 専門基礎・専門科目			平均回答率
	回答数	履修者数	回答率	回答数	履修者数	回答率	回答数	履修者数	回答率	
講義	707	1217	58.1%	1050	1854	56.6%	1015	1336	76.0%	62.9%
演習	198	460	43.0%	933	2085	44.7%	393	769	51.1%	46.0%
実習	-	-	-	626	1284	48.8%	105	288	36.5%	46.5%
実験	-	-	-	-	-	-	154	252	61.1%	61.1%
合計 (平均)	905	1677	54.0%	2609	5223	50.0%	1667	2645	63.0%	54.3%

2. 2 学生による授業評価の得点状況

集計可能な授業評価項目は、以下の7項目である。

項目①：シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義を受けましたか。

項目②：わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか。

項目③：単位認定には自己学修時間（講義1単位あたり30時間）が必要です。この講義（又は演習、実習、実験）に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか。

項目④：講義（又は演習、実習、実験）の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。

項目⑦：講義（又は演習、実習、実験）にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていたか。

項目⑧：成績評価の方法と基準は明確でしたか。

項目⑨：総合的にみて、この講義に満足できましたか。

各授業評価項目について、科目区分別及び授業形態別に学生の回答から平均得点値（以下、平均値）を求め図 1～図 3 に示した。科目区分別に見た場合、教養教育科目、看護学部及び診療放射線学部の専門基礎科目・専門科目の評価項目の平均値は、いずれも項目③（自己学修時間）が講義、演習において全体的に低く、実習、実験及び項目③以外はほぼ 4 点程度を示した。

平均値が最も高かった項目は、看護学部の項目②（わからない点の積極的な解決）及び診療放射線学部の項目⑦（自己学修時間を促す工夫）であり、共に平均値は 4.58 であった。

項目③（自己学修時間）について科目区分別に平均値をみると、表 4 のとおり教養教育科目が 2.71、看護学部と診療放射線学部がともに 3.28 となり、全体の平均値は 3.09 であった。授業形態別では、最も高いのは診療放射線学部の実験 4.15、次いで看護学部の実習 3.87 であった。一方、最も低いのは教養教育科目の講義 2.54 であった。図 4 に科目区分別にみた自己学修時間に関する評価得点の過去 5 年間の推移を示す。コロナ禍前の令和元年度は全体的に低く、教養教育科目 2.20、看護学部 2.70、診療放射線学部 2.70 であった。令和 2 年度は COVID-19 流行の影響で前期セメスターの始まりから 1 か月は休講になったが、その後はオンライン授業を取り入れ、レポート提出を含む課題が課された。この結果、令和 2 年度の自己学修時間は、教養教育科目 3.20、看護学部 3.30、診療放射線学部 3.30 と増加した。さらに、令和 2 年度後期セメスターからは対面授業とオンライン授業を併用し、自己学修時間の平均値は令和元年度に比較して高くなった。COVID-19 下の令和 5 年度前期セメスターまでは、平均値に変動がみられたが、徐々に高くなり、令和 5 年度は教養教育科目 2.71、看護学部 3.28、診療放射線学部 3.28 であった。令和 5 年度の臨地実習は、COVID-19 が感染症分類 5 類へ移行した後も感染状況により学内代替実習となる場合があり、これが自己学修時間に影響した可能性もあると考えられる。

また、項目⑨（満足度）について科目区分別に平均値をみると、図 1～図 3 のとおり、平均値は専門基礎・専門科目 4.23、看護学部 4.32、診療放射線学部 4.29 といずれも 4 以上の高い値となっていた。図 5 に科目区分別にみた満足度の過去 5 年間の推移を示す。この項目⑨についても、令和 2 年度から令和 4 年度まで COVID-19 流行により対面授業ができない期間や臨地実習が実施できない期間があったため、教員が試行錯誤しながら授業展開した時期であり、その影響で科目区分別の平均値に変動がみられた。令和 2 年度は若干低下したものの、その後は COVID-19 流行前より全体でみるとわずかに増加した。さらに、令和 5 年度は通常授業が実施できるようになり、平均値は安定した。これにより、授業形態の正常化が学生の満足度向上に寄与したと考えられる。

図1 令和5年度 教養教育科目の学生による授業評価得点（回答数：講義 707、演習 198）

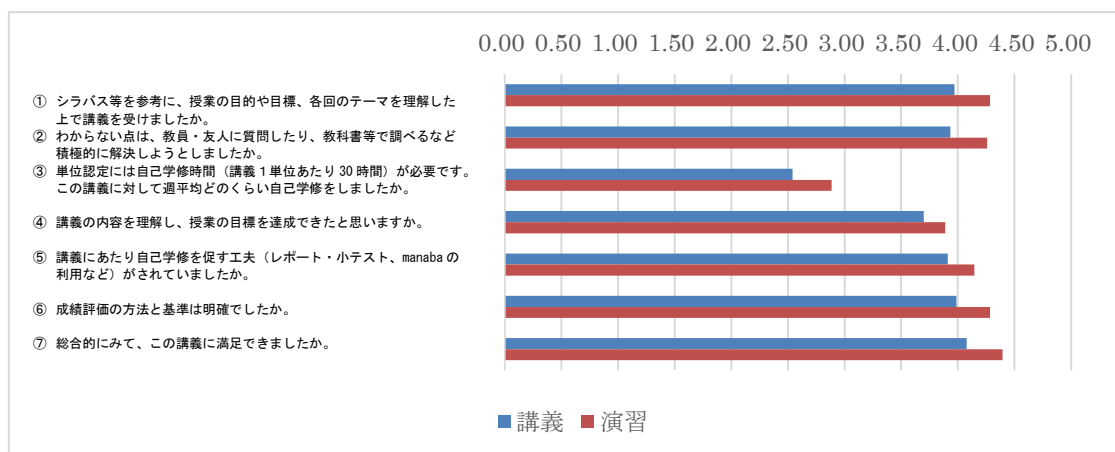


図2 令和5年度 看護学部 専門基礎科目・専門科目の学生による授業評価得点

（回答数：講義 1050、演習 933、実習 626）

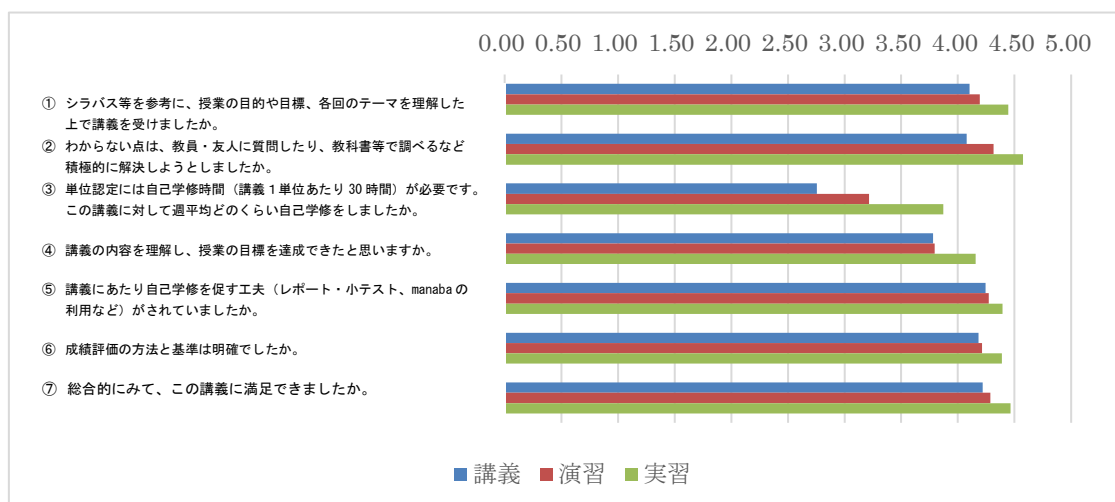


図3 令和5年度 診療放射線学部 専門基礎科目・専門科目の学生による授業評価得点

（回答数：講義 1165、演習 272、実習 132、実験 115）

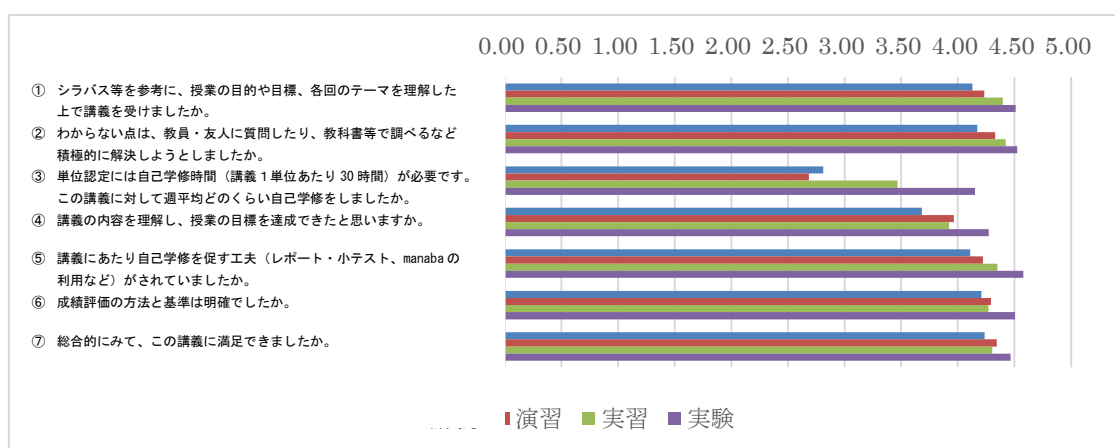


表4 令和5年度 自己学修時間に関する評価得点の平均値

	教養教育科目	看護学部 専門基礎・専門科目	診療放射線学部 専門基礎・専門科目	平均
講義	2.54	2.76	2.81	2.70
演習	2.89	3.22	2.69	2.93
実習	-	3.87	3.47	3.67
実験	-	-	4.15	4.15
平均	2.71	3.28	3.28	3.09

図4. 自己学修時間に関する評価得点の平均値の推移

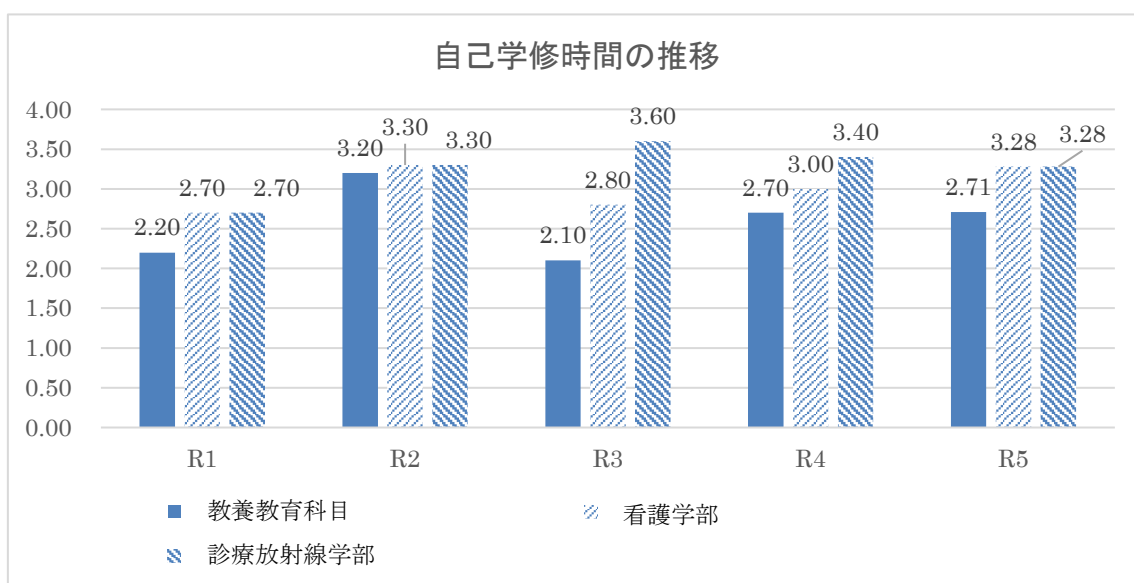
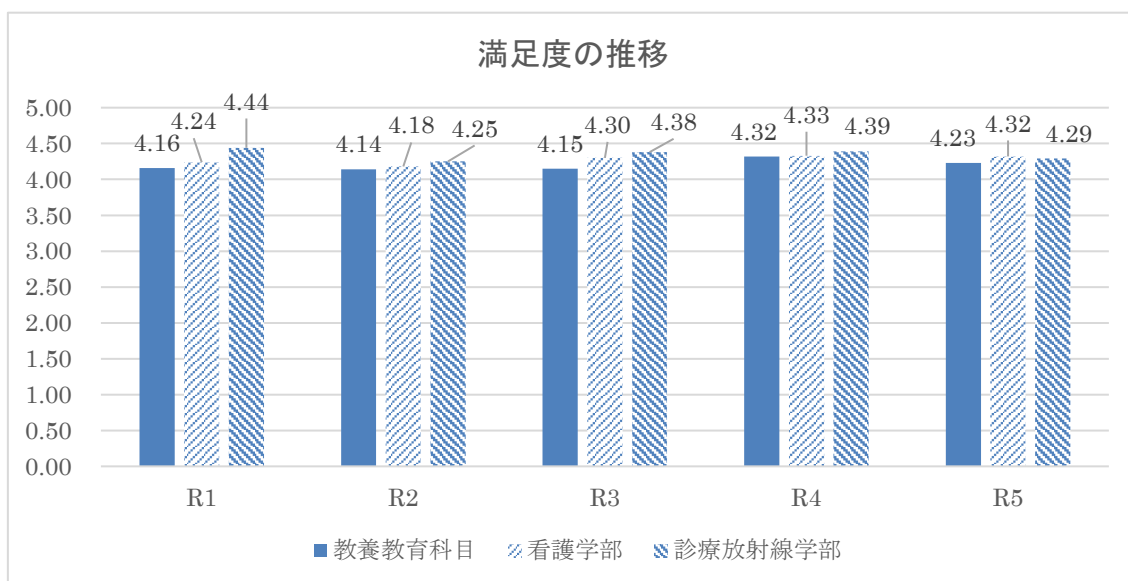


図5 満足度に関する評価得点の平均値の推移



2. 3 自由記述内容

学生による授業評価は、記載した個人が特定されないよう匿名性が確保されている。従って、アンケートには、授業に関する学生の率直な意見・感想が記述されており、自由記述の多くは学生主体の授業への興味・関心からの感想が多くを占めているが、授業改善を視点にした授業評価とは無関係な内容も散見された。しかし、本アンケートは授業を担当した教員にとって、学生の視点を通して自己の授業を振り返り、授業の改善・向上に資するための貴重な資料である。よって、本授業評価の自由記述の集計・整理作業においては、授業評価とは無関係とも考えられる記述内容においても学生のありのままの評価として取り扱った。記述内容は類似した内容を項目に分類し、主要な内容を以下に示した。

(1) 学修意欲や理解度の高まりを予期させるもの

- グループワークが頻繁にあり、他の学生との意見交換や新たな発見があった。
- ノートの取り方やレポートの書き方を学べ、もう少し早い段階で学べるとよりよいと思った。
- グループに分かれての演習により、異なる視点から物事を考える機会が得られた。
- グループメンバーと協力して課題解決し、研究結果をもとに考える重要性がわかった。
- 看護には研究が必要なことや、意義と方法について理解できた。
- 将来、仕事の現場で役立つ Excel や Word の基本を学べた。
- レポートを書く際のワードの使い方が役立ち、効率が上がった。
- チーム医療の重要性を他学部からの視点から学び、学びが深まった。
- 授業動画が manaba にアップされ、聞き逃したことをあとから確認し、復習に役立った。
- 休憩を挟むことで集中しやすくなる授業展開だった。

(2) 学生が興味を示した教材や手法

- manaba の小テストで振り返りができ、重要事項を確認できた。
- 様々な疾患について病態生理や検査など、詳細にレジュメに載っていて分かりやすかった。
- コメントカードが書きやすく、量も決まっているため、自分で要点をまとめ復習に使えた。
- 計算方法やエクセルの活用方法を学ぶことができ、将来に生かせる技術を学べてよかった。
- Word や Excel の説明動画が分かりやすく、もう一度先生が実演してくれる点が助かった。
- スライドや動画を使った授業が理解を深めた。
- 実際のご献体を用いた解剖実習が貴重な体験であった。
- 実験での経験が理解を深め、今後に役立つ知識が得られた。
- 実際に装置を操作できたことで学習が深まった。
- 小テストを行うことで、重要事項明確になる、その日の復習ができる、知識の定着の確認ができる、中間・期末テストの準備に役立つ、また国家試験にもつながる。
- 学生が作業内容を理解できないとき、先生が個別指導してくれる点が良かった。

(3) 教員の努力を要求するもの

【授業展開】

- 授業がとても早いペースですすみ、理解が追い付かない時があった。
- 難解な内容が多いため、進行を少しゆっくりにして欲しい。

- スライドの切り替わりが早いため、書く時間を設けてから説明を入れて欲しい。
- 声がききとりにくいことがあった。
- 教員がずっと喋っている状態のため、学生にとっては楽だが身に付きにくいと感じる。
- 出席カードに全く対応してくれなかったのが残念だった。
- 演習の説明が詳しいほうが良い。どれをどのように使用するか例があるとわかりやすい。
- 行動目標について、オリエンテーションでもう少し具体的に説明してほしい。
- 授業時間が延長したため時間配分をもう少し考えてほしい。
- IMRT や RALS に関する予備知識の説明がなく、授業が難しく感じた。
- 英語での講義展開が難しく内容が理解しづらかったため、日本語での講義を希望する。

【教材】

- レジュメについて、文字が小さい、文章が多く見づらいと思う、など。
- レジュメとスライドが一致していないことがあった。
- ノートを書くのに必死で話に集中できなかった、プリントに必要な情報を記載してほしい。
- レジュメの量が多く、要点が分かりづらい。
- 講義資料にカラー印刷を取り入れることで、見やすくしてほしい。
- 各班によって実習の記録用紙が統一されていなかったため、統一してほしい。
- 後ろの学生が声を聞き取りにくいようなので、マイクを使った方が良い。

【教員の姿勢・態度】

- 教員が求めた要望を出したら文句のように受け取られて怒られ、残念であった。
- 新型コロナが五類に移行後も看護学生がなぜマスクをしないのかと言われ、嫌な気持ちになった。
- 演習中に教員がバタバタして動き鬱陶しかった、また重複して同時に話をしたりした。

【成績評価・課題】

- グループによってやる気や想像力が異なるため、グループワークによる作品が評価に入ると成績は不利になると感じた。
- 試験に関する事前説明が遅いと感じた。
- 問題の出し方が難しい、問題文が見づらい、など。
- 課題が多い割には、やっても評価につながらない。
- 小テストの解説が不足しており、間違えた問題について解説を求めたい。
- 他の科目と小テスト（中間テスト）の日程を同じ日にしないでほしい。
- テストのタイミングと課題の提出期限が被っているため取り組みにくかった。
- レポート課題の詳細をマナバなどで詳しくアナウンスしてほしい。
- レポートの解答やフィードバックをもっと詳細に示してほしい。
- レポートは返却してほしい。

(4) その他

- 看護学部と放射線学部の学生が連携して学べたことが良い機会だった。

3. 教員による授業評価の実施状況

3. 1 教員による授業評価報告書の提出科目数

学生による授業評価の対象となった科目数と評価報告書提出状況を表5に示した。教員による授業評価報告書の提出率は96%（令和元年度92%、令和2年度97%、令和3年度97%、令和4年度97%）であり昨年度よりも若干低下したが、経年的には高く推移している。科目区分別で見ると看護学部の専門基礎科目・専門科目の提出率が最も高く100%であった。

表5 令和5年度 教員による授業評価報告書の提出状況

C	教養教育科目		看護学部 専門基礎・専門科目		診療放射線学部 専門基礎・専門科目		合計	
	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象
講義	29	20	28	28	35	39	81	85
演習	20	23	24	24	15	15	62	65
実習	－	－	17	17	8	8	25	25
実験	－	－	－	－	7	7	7	7
合計	40	43	70	70	65	69	175	182
実施率	93%		100%		94%		96%	

3. 2 学生の授業評価に対する担当教員による授業評価報告書の記述内容

報告書の内容は、「学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想」、「実施した授業方法・工夫に対する評価」、「授業に対する総合的評価と改善点」の3つの視点に基づく記述である。主要な内容の一部を以下に示した。

(1) 学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想

- アンケート回収率は昨年度よりも改善した。授業の満足度とも良い評価であった。
- 回答数が少なかったため、来年度以降は最終講義の時にアンケート記入の時間を設けたい。
- 授業目的や内容は理解できたが、少し難しかった。
- 講義科目で十分な理解が得られていないと思われる学生に対して解説方法を工夫し、複数の教員が別に説明を加えるなどしたことにより理解が深まったと言える
- manabaを通じた課題や確認ドリル等の自己学修の促しにより、自己学修時間が改善した。
- 自己学修時間を改善するために、事前学修・事後学修の提示方法を工夫する必要がある。
- 自己学修時間の増加は、これまでの知識を伝達する傾向が強かった講義方法が、学生の興味・関心や思考を刺激し、自己学修が動機づけられた可能性がある。
- 自己学修を行ったことで、授業の内容がしっかり理解できたなどの好意的な意見を頂けた。
- 授業に対する満足度は非常に高く、特に教材の活用や授業の進行が好評でした。

- 本講義に対する満足度は非常に高く、授業の工夫が評価されています。
- 保健師の話が多いという意見に対し、保健師を教材とした話であっても地域看護に共通の考え方を説明していることを理解できるように伝えたい、
- 学生の「理解するのが難しい」という意見に対し、社会制度に関する法制度は理解しやすいものではないが、教授すべき内容を精査するとともに教授方法の工夫により改善したい。

(2) 実施した授業方法・工夫に対する評価

- 各回の事前事後学修を含めた学修方法について丁寧にオリエンテーションを行った。
- 授業ではテキストと教員オリジナルの資料を教材とし、パワーポイントを併用して説明した。
- 各授業終了時には manaba アンケートを通し、授業内容に対する学びの整理と質問や感想を求め、適宜回答するようにした。
- 課題図書の特読と学んだ内容のレポート課題とループブックを提示し、学修習慣を身に付けられるようにした。その結果多くの学生が manaba への学習内容の整理や積極的な質問ができるようになった。
- 学生が自己学修できるように、各単元を担当する教員は授業資料に国家試験問題を取り入れ、自己学修ができるよう促した。
- 学生からの、早い段階でノートを取り方やレポートの書き方を知りたいなどの要望については、学生が学ぶ順番については意図があるため、学生にそのことを明確に伝える。
- 実習形式を取り入れることで、学生の自主的な学びが促進された。
- 実際の医療現場を想定したビデオ教材を使用し、理解しやすい工夫をした。
- オンデマンド講義動画を提供することで、授業の復習が効果的に行えたと感じる。
- 学生が実際にデータ処理を行うことで、理解度を深めることができた。
- 講義内容を毎年改良しており、特に manaba を活用した小テストが学生に好評である。
- 小テストを実施し、復習と自己学修等の学生の積極的な学習をサポートした。

(3) 授業に対する総合的評価と改善点

- 講義の満足度はとても高く、学生の理解度も上がってきているため、さらなる改善（授業資料や説明方法等）が必要。
- 授業評価への学生の協力が得られるよう、十分に準備状態を整える。
- 学生の自己学修時間を確保するために、リアクションカードをさらに活用する。
- 初回オリエンテーションを工夫した成果として、「成績評価の明確さ」は昨年度よりも改善した。次年度も継続する。
- コメントカードは現状の方法（紙媒体）を取りやめ、manaba に変更する。
- GW の方法は毎年担当教員が意見を出し合い改善してきた。そのため学生から改善を求める意見がなくなり目標が達成できたため、次年度もさらに綿密な検討を行いたい。
- 実習日程を早めに提示するためには実習施設との調整が必要であるため各教員に周知する。
- 学生が理解しづらい部分があったため、次年度は予備教材の提供を検討する。
- 授業内容に関しては概ね良好だが、レポート課題の難易度や量を調整していく必要がある。

4. 授業評価の分析

4. 1 学生による授業評価

4. 1. 1 授業評価の実施率と学生による回答率にみられる特徴

令和5年度における授業評価の実施状況は、昨年度同様に manaba システムを活用し、全科目で実施された。その実施率は 100%であり昨年度の 98%よりも向上した。具体的には、教養教育科目、看護学部、診療放射線学部を含む科目区分別全体で、実施科目数は合計 185 科目中 185 科目と全科目となり、また講義、演習、実習、実験の各授業形態においても、実施率は 100%となった。一方、学生による授業評価の回答率は全体で 54.3%となり、昨年度の 58.0%から若干低下した。しかし全体的には5割以上を維持している。特に講義では回答率 62.9%、実験 61.1%と高い値を維持した。

これらの結果は、教員の授業改善への意欲の高まり、学生による授業評価の重要性の認識の向上を示している。教員と学生の双方が、授業評価システムの有効活用に向けた意識を一層高めた結果、授業評価の実施率は高く維持され、教育の質の向上に寄与している。

令和6年度に向けては、引き続き、授業評価の学生による回答率のさらなる向上を目指し、そのための具体的な施策を継続的に推進していく必要がある。学生と教員の双方が授業評価のプロセスに積極的に関与し、その成果を教育の質の向上に生かしていくことが、今後の大学教育における重要な課題の一つである。

4. 1. 2 授業評価の得点について

令和5年度の授業評価得点に関する報告では、授業の各種評価項目に関するデータが示され、学生の授業に対する満足度や学修活動に関する評価の詳細が明らかにされた。図1～図3に基づく、全ての科目区分において、項目⑨の学生の満足度は概して高く、授業の内容や教授法が学生のニーズを満たしていることが示された。

満足度の推移を見ると、過去5年間においては令和2年度のCOVID-19の影響により授業形態の変更等が余儀なくされ、変動が見られた。令和5年度は通常授業を実施できるようになり、COVID-19の影響を受けた令和2年度と比較し高くなった。また教養教育・専門科目、看護学部、診療放射線学部の全てにおいて満足度は4以上を維持し、満足度が徐々に向上していることが確認できる。これは、授業の質の向上や学生サポートの強化が功を奏している可能性がある。

自己学修時間に関する評価得点の平均値は、講義が 2.70、演習が 2.93、実習が 3.67、実験が 4.15 という結果になった。これらの数値から、実習や実験に関連する授業では、学生がより積極的に学修活動に取り組んでいることが伺える。特に実習と実験では、学生が授業の目的や目標に沿って自主的に学修し、目標達成を目指す姿勢が評価されたことが明確になった。

自己学修時間の経年変化をみると、COVID-19 流行の影響を受けた令和2年度には、情報担当教職員を中心に常勤教員・非常勤教員を問わずサポートし、manaba システムを活用したオンライン授業、授業動画配信、レポート提出の指示などが行われ、各授業担当教員が多くの対応を行った。これにより、令和2年度は令和元年度に比べ自己学修時間が増加した。その後、授業形態は対面授業に戻ったが、自己学修時間は増加し定着している。

しかし、令和5年度自己学修時間に関する評価は、特に教養教育科目での平均値が低く 2.71 であり、学生の自己学修に対する取り組みが十分でないことを示唆している。これに対し、両学部

専門科目の実験と実習は、相対的に高い自己学修時間の評価が見られ、学生が学修に積極的に取り組んでいることを反映している。

全体として、令和5年度の授業評価得点は、多くの科目区分や授業形態において学生の期待を満たすレベルにあることを示しているが、自己学修時間の確保とその質の向上には更なる改善が必要である。今後は、特に自己学修時間が少ない科目に対して、積極的な学修機会の提供や学修への意識改革を図ることが重要となる。

4. 1. 3 学生の自由記述について

令和5年度の授業評価における「学生の自由記述について」では、学生たちは「この講義（または演習、実習、実験）の良かった点、改善点について、具体的に記入してください。」という質問に答え、学生の視点からの具体的な意見や感想を提供した。多くの学生が授業の具体的な改善点や、教材の利用方法、教員の教授法について積極的に意見を述べた。その中で、特に注目されたのは、学修意欲や理解度の向上を促す授業方法や、学生の興味を引き出す教材の使用であった。例えば、「グループワークが頻繁にあり、他の学生との意見交換や新たな発見があった」「チーム医療の重要性を他学部の視点から学び、学びが深まった」といった肯定的なフィードバックが多数見られた。また、教員の工夫と努力に対する評価も高く、学生が分かりやすく、具体的な学修ができるよう配慮された教材の選定や、授業展開の工夫が認められた。しかし、一方で学生からは授業展開の速さ、教員の姿勢や態度に関する改善要望も挙がっており、講義の進行速度、授業中の学生への声かけなど具体的な改善点が指摘された。

令和5年度は、授業方法や教材選定における教員の創意工夫、改善がみられる一方で、学生のニーズに応えるためのさらなる改善が求められた。学生の自由記述からは、授業のペース調整、より丁寧な説明を求める声が多く寄せられた。また、教員と学生間のコミュニケーションの改善、課題や評価方法の提示など改善が求められた。教員は、授業展開に関する工夫、授業の進行速度を学生の理解度に合わせて調整するなど、学生の学修体験を向上させるための具体的な改善策が求められる。さらに、学生からの質問に対する教員の反応や、授業内での相互作用を促進するための取り組みも重要であり、これらのアプローチによって学生と教員の間でより密接なコミュニケーションが生まれることが期待される。また、教材に関する学生のフィードバックを反映させ、より理解しやすい、関心を引く内容への改善が望まれる。これには、反転授業の活用や、インタラクティブな演習の実施などが挙げられる。これらの方法を通じて、学生が主体的に学修に取り組み、深い理解を得ることができるよう支援することが重要である。

4. 2 教員による授業評価報告書について

教員による授業評価報告書は、学生からのフィードバックを基に、教育の質の向上と学修効果の最大化を目指し、授業の改善に役立てるための重要なツールである。令和5年度の授業評価報告書は、教員による客観的な自己評価の機会を提供し、学生の授業に対する理解度、授業の目標達成状況、授業への取り組み、自己学修への動機付け、および授業に対する満足度を、学生の視点から分析することができる。

表5によると、教員による授業評価報告書の提出率は96%と、同様の高い水準を維持している。特に看護学部専門基礎科目及び専門科目では100%の提出率が達成された。この結果は、教員が授業の質を維持し、向上させるための努力を継続していることを示している。

授業評価報告書の内容では、学生の授業評価を踏まえた教員の感想や工夫された授業方法の評価、総合的な授業評価と改善点に関する記述が含まれている。授業の自発性、授業への満足度など、学生の学修体験を豊かにするための多様な試みが評価されている。

改善点として、授業の参加促進、リアクションカードの活用、グループワークの時間の増加、自己学修の促進など、学生の学修環境をさらに充実させるための提案が多数記載されている。また、学生の学修動機を高め、授業内容の理解を深めるために、定期的な小テストの導入、最新の統計や資料の活用が検討されている。

これらの努力は、教育の質をさらに高め、学生にとってより良い学修環境を提供するためのものである。令和5年度の教員による授業評価報告書から得られた知見は、今後の授業改善に向けた貴重な資料であり、教員と学生の両方にとって有益なものである。教員の創意工夫と学生の積極的な参加により、より効果的で満足度の高い授業が実現されることを期待する。

5. 令和5年度におけるFD部会・委員会の活動について

FD関連組織は、令和5年度より内部質保証委員会の下部組織として改組され、授業評価に基づく迅速な改善対応が可能となった。また、学部ではFD部会が設置され、大学院では研究科専門委員会の一つとして研究科FD委員会が位置づけられている。

FD部会では、非常勤講師を含む教員に対して、授業科目ごとに、学生による「授業評価アンケート」の実施を依頼した。その結果を踏まえ、担当教員は、自身の授業に対する評価と改善点を「教員による授業評価報告書」として作成した。アンケート集計結果については、IR部会で分析を行い、FD部会で全体の結果を取りまとめ、「授業評価報告書」として作成した。

令和5年度は非常勤講師会で、学生の授業評価結果を基に授業の改善策や実践例を説明し、質改善の共有を図った。さらに、FDに関する教員研修会の企画・実施を行った。

本年度は授業評価調査を開始後14年目となった。平成29年度よりmanabaを用いた調査を導入し、平成30年度及び令和4年度にはアンケート内容の一部が変更された。これにより、授業の改善点は学生の自由記載内容により明確化され、教員が授業改善の具体的な施策を検討・実施する際の参考資料として活用されている。令和4年度より新カリキュラムが導入され、アンケート内容の変更が授業改善にどの程度影響を及ぼしているかを検証し、改善策の妥当性を評価するため、今後も継続してデータを蓄積し、その推移を分析・評価していくことが必要である。また、令和5年度のアンケート回収率は前年度とほぼ同様であり、質の高い教育内容を提供するためには、さらにアンケートの回答率を高め、多くの学生からの評価を得て、授業改善に反映できるよう、継続して努力をしていく必要がある。

学生による授業評価と教員の授業評価報告書双方において、manabaやTeams等のICTを活用した教授方法や教材活用が、学生の事前・事後学修への取り組み意欲を高め、授業内容の理解を促進する効果がアンケート結果や授業評価から明らかになった。次年度以降も、引き続きmanabaやTeams等のICTを有効活用し、学修効果の向上にむけた創意工夫のある授業展開が必要である。

大学教育の目的は、教育・研究を通してディプロマ・ポリシーを満たす学生を育成することである。組織的な教学マネジメントの実践においては、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを基盤とした学修目標の具体化や、学修成果・教育成果の把握・可視化、FD 研修会の実施等により教育課程の質保証を行っている。各科目の成績評価は平成 30 年度から成績評価ガイドラインが施行され、令和元年度より正式に運用が開始された。GPA で数値化された成績評価結果は、成績評価の透明性と公平性を高めるとともに、学修成果の客観的把握を目的として教員にもフィードバックされ、年度ごとの成績評価分布が成績に利用されている。FD 部会では各教員の成績評価を確認し、受講学生のほとんどを GPA4.0 に近い評価をした教員に対しては、本学の成績評価ガイドラインの主旨を再度説明し、適切な評価基準になるよう働きかけている。また今後は年度ごとに SD（標準偏差）の変化を集計・分析し、経時的にモニタリングしていくことで、その効果を判断していく必要がある。

本学は大学院生を対象にティーチング・アシスタント（以下、TA）制度を導入している。TA は講義や演習、グループワークなど教育の一端を担っており、その役割も大きい。大学設置基準の改正も踏まえ、令和 6 年度の実施を見据えた取り組みとして、令和 5 年度には TA が関わる授業において、教育の質の維持及び向上ができるように、TA の役割や学生への対応等に関するガイドラインを作成し、研修会の具体的な実施計画を策定した。

以上のように、授業評価結果に基づく授業改善・向上のみならず、学修成果の把握・可視化、適正な成績評価等を組み合わせた検討を継続することにより、本学の教育・研究の質向上にむけた課題の明確化と改善への取り組みが必要である。

6. まとめ

令和 5 年度を通じて、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを基盤とした学修目標のさらなる具体化と、学修成果・教育成果の把握・可視化に重点を置いた活動を展開した。特に、FD 研修会の積極的な実施や、教育課程の質保証に向けた取り組みが、学生及び教員の成長と発展に寄与した。

授業評価の分析においては、令和 5 年度における学生による授業評価の実施率と回答率は、前年度に引き続き高い水準を維持した。これは、manaba などのシステムを活用し、教員と学生間のコミュニケーション強化や、リマインドメールの効果的利用、調査期間を単位認定試験後まで延長し学生が回答しやすくなるなど、多方面からのアプローチが功を奏した結果である。授業評価得点に関しては、自己学修を促す工夫が施された講義の評価得点が、全体的に学生の満足度を反映する形で高く評価された。これは、授業の内容や教授法が学生のニーズを満たしていることの証であり、特に実習や実験に関連する授業では、学生の積極的な学修活動が評価された。また、学生の自由記述からは、授業方法や教材選定における教員の創意工夫が高く評価される一方で、授業のペース調整や教材の視認性の向上など、さらなる改善の必要性も示された。教員と学生間のコミュニケーションの改善や相互作用の促進が、教育環境の向上に寄与することが明らかになった。令和 5 年度の教員による授業評価報告書からは、教員が授業の質を維持し、向上させるための努力を継続していることが示された。また、学生からのフィードバックを基にした授業改善の試みが、教育の質をさらに高めるための重要な手段であることが確認された。FD 部会・委員会

の活動においても、授業評価の実施やFD 教員研修会の企画・実施を通じて、教員の教育スキル向上と学生の学修効果の最大化に貢献した。

以上の取り組みを通じて、令和5年度は、学生及び教員の学修成果と教育成果の向上、さらには大学教育全体の質の向上に大きく寄与した年であった。授業評価の実施率と回答率の改善は、学生と教員が共に教育過程に積極的に関与し、その質を高めようとする姿勢が浸透していることを示している。また、授業評価得点や学生の自由記述から得られたフィードバックは、教員による授業内容の見直しや教授法の改善に直結し、教育の質向上に貢献している。令和6年度に向けては、本年度の成果を踏まえつつ、さらなる教育の質の向上を目指す必要がある。授業評価の回答率向上に向けた取り組みはもちろん、学生の自主学修を支援する教授法の開発や教材の改善、学生と教員間のコミュニケーション強化を通じた学修環境の整備が重要である。特に、学生の自己学修時間の確保とその質の向上、学生の学修体験を豊かにするための教材や授業方法の改善は、継続した大学教育における重要な課題である。また、教員による授業評価報告書の分析やFD 研修会のさらなる充実を通じて、教員の教育スキルの向上と学修効果の最大化を図ることも求められる。ICT ツールの活用を含めた教授方法の革新や、授業の中に少しでもアクティブラーニングを取り入れ学生自身が考えるような授業展開、ルーブリックの開発と活用などの教育手法の導入にも積極的に取り組むべきである。

最後に、授業評価システムの有効活用とその結果のフィードバック機能の強化により、学生と教員が互いに学び合い、成長できる環境を維持・発展させることが、令和6年度及びその先の大学教育の質の向上につながる。大学教育の目的は、教育・研究を通じて社会に貢献する人材を育成することであり、そのためには、教育の質の継続的な向上が不可欠である。教育の質向上には、FD 研修会のみならず、ベストティチャー賞授与式後に行われる授業方法の発表も効果的である。研究部会や両学部FD 部会、両研究科FD 委員会等と連携し、各年度の方針や内容を共有していくことで、さらなる向上が期待できる。そのため、このような連携を強化することが今後の課題の一つである。令和5年度の取り組みはその重要な一歩であり、今後もこの方向性を継続し、さらなる教育の質の向上を目指していく必要がある。